

問1 『源氏物語』を書き、平安時代の国風文化を代表する女性作家は誰？

1. 和泉式部                      2. 菅原孝標女                      3. 紫式部                      4. 清少納言

問2 平安時代中期、貴族の邸宅として発展した日本独自の建築様式を何という？

1. 国風文化                      2. 室町文化                      3. 鎌倉文化                      4. 天平文化

問3 平安時代中期に、地方の統治や徴税などの実務を一任された地方官を何という？

1. 郡司                      2. 目代                      3. 太宰帥                      4. 国司

問4 平安時代中期に『枕草子』を著し、宮廷生活の機微を描いた人物は誰？

1. 清少納言                      2. 和泉式部                      3. 紫式部                      4. 小野小町

問5 天台宗において、あらゆる人が救われるという教えの中心となっている経典を何という？

1. 法華経                      2. 大日経                      3. 金剛経                      4. 阿弥陀経

問6 平安時代後期に院政を最初に始めた上皇は誰？

1. 白河上皇                      2. 後白河上皇                      3. 後鳥羽上皇                      4. 鳥羽上皇

問7 939年、関東地方を拠点として朝廷に反旗をひるがえした武士は誰？

1. 藤原純友                      2. 藤原秀郷                      3. 平将門                      4. 平貞盛

問8 平安時代に、地方に赴任せず京に留まったまま役職だけを持つ国司のことを何という？

1. 掾                      2. 受領                      3. 介                      4. 遙任

問9 平安時代初期に唐から天台宗を伝え、比叡山に延暦寺を開いた人物は誰？

1. 最澄                      2. 日蓮                      3. 親鸞                      4. 空海

問10 平安時代、地方の政治が乱れる大きな原因の一つとなった制度の廃止を何という？

1. 遣唐使廃止                      2. 平城京遷都                      3. 長岡京遷都                      4. 大化の改新

問11 平安時代初期、朝廷の支配が及びにくかった日本の北東部地域を何という？

1. 東北地方                      2. 四国地方                      3. 九州地方                      4. 近畿地方

問12 遣唐使の停止を建議した後、政争に巻き込まれて左遷された先はどこ？

1. 多賀城                      2. 平安京                      3. 大宰府                      4. 平城京

問13 平安時代に国風文化が発展するきっかけとなった、中国へ使者を送る制度の終了を何という？

1. 遣唐使の廃止                      2. 壬申の乱                      3. 大化の改新                      4. 承久の乱

問14 摂関政治を抑制し、独自の権力を取り戻そうとした天皇は誰？

1. 醍醐天皇                      2. 村上天皇                      3. 白河天皇                      4. 後三条天皇

問15 空海が唐で学んだ密教を日本に広めるために金剛峯寺を建立した際、唐へ渡った制度を何という？

1. 遣唐使                      2. 遣渤海使                      3. 遣新羅使                      4. 遣隋使

問16 平安時代末期、武士として初めて任命された最高位の官職を何という？

1. 内大臣                      2. 右大臣                      3. 太政大臣                      4. 左大臣

## 答え合わせ・解説

|     |                |   |
|-----|----------------|---|
| 問1  | 答え 3<br>紫式部    | 紫式部は、藤原道長の娘に仕えながら、『源氏物語』を執筆しました。この物語は、主人公である光源氏の栄華と没落を通して、人間の心理や当時の貴族社会を克明に描き出しました。   |
| 問2  | 答え 1<br>国風文化   | 国風文化は、仮名文字の普及による文学の発展や、独自の美的感覚を反映した建築、絵画（大和絵）などが特徴です。日本人の心情や感性を豊かに表現したこの文化は、当時の貴族社会のあり方を象徴するものとなりました。   |
| 問3  | 答え 4<br>国司     | 国司は地方の政治や徴税を一手に引き受ける地方官です。この職に就くことは、地方の富を吸収できるため、貴族たちにとって大変うまみのあるポストとされていました。   |
| 問4  | 答え 1<br>清少納言   | 清少納言は、中宮定子に仕えた女房です。彼女の代表作『枕草子』は、「春はあけぼの」という有名な書き出しで始まる随筆です。宮廷生活の中での出来事や、自然の美しさに対する鋭い観察眼と、彼女自身の機知に富んだ考え方がユーモアを交えてつづられています。当時の貴族社会の価値観や美的センスを知るための極めて重要な資料です。 |
| 問5  | 答え 1<br>法華経    | 法華経は、天台宗が最も重視する經典で、「すべての人は平等に救われ、仏になることができる」という教えを説いています。最澄はこの經典に基づき、人々に正しい修行と理解を求めました。この包摂的な教えは、特定の僧侶だけでなく、多くの人々に仏教の門戸を開く役割を果たしました。                        |
| 問6  | 答え 1<br>白河上皇   | 白河上皇は1086年に院政を開始しました。上皇は自分の屋敷である「院」に院庁という機関を設け、天皇に代わって国の重要事項を決定しました。これにより、有力な貴族ではなく上皇が政治の主導権を握るようになりました。  |
| 問7  | 答え 3<br>平将門    | 平将門は、関東の有力者として朝廷の支配に対して反乱を起こしました。勢力を拡大した将門は、自らを「新皇」と名乗り、独立した政権の樹立を目指しました。この乱は、当時の朝廷に大きな衝撃を与えました。  |
| 問8  | 答え 4<br>遙任     | 遙任（ようにん）は、国司が自らは現地に行かず、代わりに代官である「目代（もくだい）」などを派遣して統治させる形態です。これにより国司は責任を回避しつつ収益だけを確保することができましたが、地方政治の腐敗を加速させる要因となりました。  |
| 問9  | 答え 1<br>最澄     | 最澄は唐へ渡り、天台宗を学んで帰国しました。比叡山に延暦寺を建立し、厳しい修行を通じて多くの高僧を育てました。また、大乘仏教の戒律を授けるための「大乘戒壇」の建立を目指しました。   |
| 問10 | 答え 1<br>遣唐使廃止  | 894年の遣唐使廃止によって日本は中国との公的な外交関係を絶ちました。これにより、中央政府の関心は外交から国内統治へと向かいましたが、地方へ派遣された国司たちが現地に赴かず、京に留まって私腹を肥やすといった政治の腐敗が目立つようになりました。                                   |
| 問11 | 答え 1<br>東北地方   | 東北地方には、朝廷の支配に従わない人々が生活しており、朝廷側は彼らを「蝦夷」と呼んで服属させようとしていました。朝廷は多賀城などの拠点を作り、軍事的に征討を試みましたが。   |
| 問12 | 答え 3<br>大宰府    | 道真の急激な昇進に嫉妬した藤原氏などの貴族によって、道真は無実の罪を着せられ、九州の大宰府へ左遷されました。道真はそこで失意のうちに亡くなりましたが、その後、都では道真の怨霊の仕業とされる天災や異変が相次ぎました。   |
| 問13 | 答え 1<br>遣唐使の廃止 | 遣唐使の廃止は、中国の文化に直接頼る時代から脱却する転換点となりました。これにより、日本の風土や生活に合わせた独自の文化が重視されるようになりました。   |
| 問14 | 答え 4<br>後三条天皇  | 後三条天皇は、母が藤原氏の出身ではなかったため、藤原氏の影響をあまり受けずに即位しました。彼は藤原氏の干渉を排除して政治を行うため、記録荘園整理令などの政策を打ち出し、天皇中心の政治を復活させようとしていました。この動きが、のちの院政へとつながる重要な転換点となりました。                    |
| 問15 | 答え 1<br>遣唐使    | 遣唐使は7世紀から9世紀にかけて、朝廷が中国へ送った外交使節団です。空海や最澄ら多くの僧侶や留学生が渡り、仏教の教えや政治制度、芸術などを持ち帰りました。これにより日本の社会や文化は大きな影響を受けました。   |
| 問16 | 答え 3<br>太政大臣   | 1167年に平清盛がこの地位に就きました。武士が朝廷の最高職に就くことは当時としては異例のことであり、平氏一族が貴族社会の中枢に深く入り込んだことを示しています。   |